

# 教務だより

2016年2月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 合格の扉は自分で開く！

茗溪塾塾長 宇野雅春

暖冬だったのに急に寒いが続いています。インフルエンザもはやり始めたようで、ここから先の受験生は、特に気をつける必要がありそうです。早朝、真っ暗な中で目を覚まし、旗と腕章を持って試験会場に向かう日が続いています。毎年繰り返していても緊張を強いられる時期です。まして初めて経験する生徒やご父母のストレスはいかばかりだと思います。中学入試はほとんどが実力突破の受験ですから、それだけに頑張ることで報われる受験といっても良いかと思います。複数回受験し続けてやっと合格を取るといふ執念の合格もたくさんありました。第一志望に残念ながら届かず、無念の涙の生徒もいましたが、落ち着いて振り返ってみれば、そこまでやって駄目であったとすれば「悔いのない受験」といえるのでないでしょうか？

ぱったりと終わってしまった中学入試で虚脱感に襲われる先生達も少なくありません。入試前日、今日が最後の授業だ…と思いながら、授業に臨んだことを思い出します。

生徒の方は、あまり感じていないのですが、あんなに頑張った受験勉強も、受験が終わってしまえば、永久に…ないという事。今は一瞬一瞬が鮮明に思い出されます。

中学入試と並行して始まった高校入試は、今最後の追い込みに突入しています。併願校の合格で緩む生徒や、なかなか合格が出ず焦る生徒たちと苦楽を共にしつつ、ここでは共同作業の充実感があります。合格も友達に気遣ってか、声高に叫ぶこともなく、入試から帰ってきた生徒の問題を一緒に解いて、採点を手伝う生徒もいます。入試最終盤のこの充実した雰囲気は毎年のことですが、今月でほぼ終了となります。

大学受験も真っ最中、朝早くから自習室を使う生徒たちがたくさんいます。合格、不合格、悲喜こもごもですが、ここには決して辛いだけではない「努力」の形があります。

1人1人は内心穏やかでないことも多くあるのですが、全体としては、むしろ「楽しい」と言っている状況です。先生たちも、非常に厳しいと感じるのは、朝起きた瞬間だけで、動いているときは、辛さを忘れます。合格発表さえなければ、こんなに楽しい仕事はありません。ただ、私達は、その楽しさも「不合格」ともなれば、強い後悔の念を引き起こすことを知っています。だから、実は必死になっています。

不合格を告げる電話の向こうで、泣いてしまう生徒もいます。「ばか！泣いてる場合じゃないだろ！次の準備があるだろ！」と返しなが、めげているのは先生の方で、けろっとして現れる生徒に逆に救われたりします。「受験を思いっきり楽しもう！」というスローガンは、場違いな感じですが、実はあっています。辛い勉強をあと一歩と頑張っている中にも必ず「喜び」や「笑い」があります。

高校入試は、今前哨戦が終わったところ、最終盤に入ります。この最終盤が一番大切です。なぜなら、第一志望校がほとんどだからです。大学入試も国立まで、最後の追い込みです。この激しい日々の中で、「気を抜かず最後をやりきる」ことが、ここからのテーマです。「合格の扉は自分で開く！」入試の最中はわからないかもしれませんが、必ずわかる時がきます。受験の結果は、生徒一人一人の努力の結果です。その結果を導くためにどんなサポートが有効なのか私達の課題です。主役はあくまでも生徒ですが、トレーナーだったり、コーチだったり、そして時には友達だったりして、はたから見れば、空回りしているような私達も、ほんとは、喘ぎながら、本気がなければ、実はやって行けないような状況下にあります。生徒たちに支えられながら、やれているというのが本当ですが、それが私達の大きな充実感であり喜びにつながるものであることは間違いありません。

でも最後は、自分の合格の扉は自分で開く！どんなサポートも指導も本人の努力なしには成就しないということです。